

# はくせんぎん

## 大雪物語り

第89号 H26年春彼岸号

伊豆市 法住寺 発行

どんどん、みるみると積もっていく雪は伊豆では珍しく、しかも一週間ごとに二回も、何十年ぶりの大雪であった。ちょうど土、日曜日で、直ぐに玄関までを雪かきし、そして本堂前までの歩道を除雪した。こんな雪の日にも本堂前までのお詣りはないのだが、それでも仏さまが通りになる気がして何か清々しい気持ちであった。

\*

大雪の二日後、午前中は雪かきし、午後は待望の東駿河湾道路が開通するというので新しい道路を走ってみようと出かけた。インターに近付くと凄まじい渋滞、ちようど開通式典が終わった直後だったようで、私のようなやじ馬が多かったのだろう。しばらく待ってもビクとも動かないので諦めてUターン。その帰りぎわ信号待ちで、ある衣料販店の前で停まると、広い駐車場が輝いているように見えた。雪がないのである。どの店も雪が残って

いたり、除雪した雪が山のように残っていたりなのだが、その店はスツキリとみえた。

大雪の後、ゆつくり衣料品を買い物する客は少ないであろう、駐車場の一部を雪かきしておけば十分であろう、かいた雪は駐車場の隅に山積みしておけばよいだろう、街中だし数日すれば雪は溶けるだろう。なのにスツキリと除雪してあったのである。効率を最優先するとときく量販店、広い駐車場を全部除雪するなど効率の悪いことだ。でも何か目に見えないモノ、客を迎える心構えのようなモノを見たと思う。「後から考えれば通りすがりに見ただけだから、よく見れば駐車場の何処かに雪は残っていたかもしれない。でも私にはそのように見えたのである。」

\*

そんな訳でスツキリ駐車場を見てしまった私は、お寺の境内もやれるだけやってみようと、次の日からも延々と雪かきを続けた。まずは境内脇の車道、車が通れるだけは近所の中央バスが除雪して下さり大助かり。その後の道路脇の除雪、境内からは一輪車で数えきれないほど道路脇の水路に運んだ。寿量の塔やお墓の入り口と範囲は広い。本堂、書院の大屋根からの雪は背丈を超える程の山。本堂と書院に挟まれた中庭は、雪の捨て場がな

く陽の当たりも少ないので最後まで残ったが、根気よく雪の山を削っていた。

そんな様子を送ったメールの返事「さすが法住寺さまの雪かきは美しい!」、雪かきにも美学があったのだと、チョット嬉しくなったりもした。

\*

わざわざそんなに雪かきしてもしなくて



裏口から表境内へ



ベランダが雪の重さでたわみ急いで屋根に登って雪おろし

も、天気になんておけば溶けるし、その方が自然であることは承知なのだが、そのままにしておけば春のお彼岸過ぎまで残ったと思う。何より雪かきすることに、いつもの境内



になっ  
てい  
くこ  
とは  
楽  
しい  
こと  
で  
あつ  
た。私  
ども  
夫婦  
が  
尊敬  
する  
寺  
庭婦  
人の  
こと  
ば「何  
事  
もな  
かつ  
たよ  
うに  
片付  
け、い  
つど

なたの  
お詣  
りが  
あつ  
ても  
良い  
よう  
にし  
てお  
く」  
を思  
いな  
が  
ら。

(写真右)本堂前  
敷石の上まで雪  
(写真左)中庭  
左下は書院廊下。  
廊下よりも一m  
以上高く雪

## お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

二月の大雪で雪かきに、二週間余り汗を流した。たくさん雪で古木の枝が折れたり万物が雪に覆われて凍った：と思いきや、雪解けが始まった途端、植物が生き返ったように瑞々しく蘇っているように見える。

福寿草などは、雪の降る前よりも、ひとまわり大輪の花を広げて陽の光をあび、まぶしい程の金色の光を放っている。何日もあの雪に埋もれていた時間を思うと、その姿はどこか人を励ますところがある。

「冬厳し、春を含みて。」という言葉聞く。春は名のみ寒の底にも、地中に森に、幾万



福寿草

の芽が時を待っているということだろう。与えられた中で、たくましく生い育つ植物に花にあやかりつつこ、の一年と向き合おうと思う。

## トピックス

### 星祭の

今年  
は朝  
から  
修  
法  
師  
の  
お  
上  
人  
さ  
ん  
方  
が  
代  
わ  
る  
代  
わ  
る  
お  
経  
(  
寿  
量  
品  
)  
を  
輪  
読  
、  
本  
堂  
を  
清  
浄  
に  
し  
て  
下  
さい  
ま  
し  
た。  
お  
寺

の下の田んぼで仕事をしていた方は、朝からお経が聞こえてきて、何とも心地よく気持ちよかったです。私には目に見えないものの、善き縁、悪しき縁は存在します。清浄な祈りは善き運勢をよび、悪しき運勢を退散してくれます。この星祭りを機に、日々お題目をお唱えすることでお題目の運勢を確かかなものにしていきたいものです。



## 大雪被害

本堂をはじめ沢山の雨どいの被害がありました。JA建物共済に保険を申請しています。樹木では中庭のサルスベリの老木の枝、山門の白梅老木の枝等が折れました。



中庭の古木、サルスベリの枝が折れる

## 境内整備作業

春の作業は、裏入口の山（第一墓地北側斜面）に植樹をしよう予定です。昨年、植樹してもらったモミジ、サルスベリは良く育っており、今年も引き続きの作業です。今年はムクゲも加え植樹し、百年、二百年の森づくりを目指しています。いつもご奉仕、本当にありがとうございます。

## お寺のホームページ、

### スマートフォンでも見やすく

スマートフォンが普及が進んでいますので、お寺のホームページを改修し、スマホに対応し見やすくしました。内容、レイアウトも少し変えたのでぜひご覧ください。またブログは五百回を超え、アクセスも五万回を超えました。

これからも日々、境内に咲く野の花やお寺の行事、お便り、寺報（はくがんさん）、住職のつぶやきブログなど更新していきます。

検索↓寿命の会

<http://jiryu.jp/>

## お詣りアクセスアップ

### ①東名、新東名と直結

念願の東駿河湾環状道路が開通した。沼津長泉インターから修善寺インターまで四〇分、十五分の短縮となります。京浜方面、遠方よりのお詣りが便利になりました。道路は片側一車線、車の混雑具合で所用時間は大きく変わりますので、余裕をもってお出かけ下さい。



### ②修善寺駅新駅舎は八月完成

新駅舎の一部は昨年十月から一部供用されていますが、完成は今年の八月を予定しています。

## 身延山輪番奉仕

### 枝垂れ桜咲く春に

期日 三月三十日（日）  
会費 一万円（小中高生五千円）  
締切り 三月二十一日（金）

・昼食は門前町の旅館にて用意します。  
・詳しくは近所の世話人さんにお尋ね下さい。

## 東日本大震災復興お題目写経

東日本大震災から既に三年経ちましたが、静岡県東部宗務所では、慰霊行脚、慰問等支援活動を行ってまいりました。今回のお題目写経は今年の秋に東北の海に流し（写経用紙は水溶性）、更なる復興を祈念致します。一枚につき百円のご志納をお願い致します。



## 洋明さんのおはなし

二月中旬の大雪。中庭の樹齢三百年の百日紅の枝をはじめ、あちこちの植木や雨樋が折れ、車は動かせず、皆口々に「まったく、大変だ！大変だ！」と雪掻きに追われたものです。「まったく」と口にすれば次の「まったく」の出来事を呼び、自を「大変だ」と口にすると「大きく変わる種を潰してしまいます」と皆さんに話していながら・・・反省です。そんな大雪は、子供たちに休校という思わぬ休みをもたらしてくれました。お陰さまで

子供たちは一日中雪遊び。

都合の良い雪ではありませんでしたが、「形あるものは何時かは滅びる」というお釈迦さまの教えを三百年の百日紅に教えられ、もったいなかったと惜しむ気持ちを「今がその時」と諭された気がします。

皆さんも普段あまり接点のない方や近所の方と一緒に雪掻きをし、声を掛け合ったことと思います。

多くのことを教えてくれ、また沢山の縁を結び深めてくれた、そして何といても一面を白色の「無垢清浄」にしてくれた雪でした。

\* そんな中、ソチオリンピックでは、沢山の選手に「一生懸命」を見せてもらいました。特に浅田真央選手の演技はまさに「魂の演技」、本当に心打たれました。あの演技を見た後、メダルはあくまでも結果であり、それがすべてではない。それ以上に大切なものがあることを教えられました。魂のこもったものは、まっすぐに自分たちの心に、魂に響くのだと。

命」の由来だそうです。

法華経ではこの「一生懸命」を「不自惜身命」といいます。命を惜しむことなく、命がけで、と言うと大げさに聞こえるかもしれませんが、それだけの覚悟をもてることはなかなか出来ない尊いことです。

お題目、お経には「法力・経力」という力があります。この力は私たちの魂を磨き、魂の思い・祈りをまっすぐに仏さまや鬼子母尊神等の諸天善神に届け伝えてくれます。切羽詰った追い込まれた時、仏天はその覚悟を確かめて下さり、不動の覚悟にしてくれます。この魂の祈り・覚悟をもてるのが「一生懸命」なのです。

\* 最近では、お金の尺で物事をはかり、結果や効率重視の合理的な事が増えています。その中で自分の「一生懸命」に出会えるのは、苦しく悩ましい時がほとんどでしょう。切羽詰ったり、追い込まれたり。ですが、その「一生懸命」に出会えることは幸せなことです。出会った時には魂の祈りを仏天に届け、揺らぐことのない覚悟がもてるよう日々お題目、お経を唱え魂を磨いて下さい。その磨いた魂は「一生懸命」として、必ず周りの人の心に魂に響くことでしょう。

### 御志納金「一月〜三月」

沼津市

石井家 殿

尊父菩提供養

伊東市

松本家 殿

寿量の塔納骨砌